

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 見附福祉会	代表者	清水慶太郎	法人・ 事業所 の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 施設の周囲に畑や園芸を配し、四季の彩を楽しんでいただくとともに、園芸作業を通じて心身機能の維持・改善効果を期待しています。地域の方々にもご支援いただきながら運営しています。 施設の中央には「ベジタブルカフェ」と称したキッチン付きの開放空間を備えています。郷土料理や、趣味活動の場として活用しています。 特別養護老人ホームや、グループホームと連携しながら行事なども行っています。
事業所名	ケアガーデン新幸	管理者	三沢 富子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	1人	人	2人	1人	1人	5人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	日々の様子、ケアの実践、気づきなどの取り組みを、積極的に発信していく。	畑や趣味活動など意向に沿った活動が限られてしまった。ミーティングで検討し、チームで対応する機会も増えたが、業務優先してしまうこともあった。	日々の様子は本人に聞いても忘れていたが、連絡帳に記載があり、職員からも口頭で報告してくれるためありがたい。	情報や気づきなど記録に挙げ本人の思いを紐解き、プランに反映し、自分らしく楽しみを持ち暮らせるよう取り組んでいく。
B. 事業所のしつらえ・環境	感染対策に努め、清潔で安全な環境と共に、温かみのあるしつらえの提供をしていく。	換気の徹底や毎日の座席の把握、体調の確認で感染を持ち込まず過ごすことができた。季節を意識したしつらえを提供できた。	コロナ禍で施設の出入りや面会も制限されているので、取り組みも難しいと思います。建物内の中心に集まるベジタブルカフェがありよい空間だと感じます。	清潔に安全な環境で過ごせるようマニュアルの整備を行い、感染予防していく。 季節感の感じられるしつらえ作りを行う。
C. 事業所と地域のかかわり	オンライン面会や交流など時代に合った方法で、活動を止めることなく、行事に取り組む。	コロナ禍地域のイベントは自粛傾向だったが、新幸祭・収穫祭・餅つきなど特養・GHと協力し行えた。ベジタブルカフェを活用し好きな時間に創作活動を行うことができた。	推進会議で見せていただく写真では色々と工夫してイベントを計画されている	感染症を持ち込まないよう対策を強化しながら、ベジタブルカフェを活用した季節感のある行事の計画や地域イベントへの参加を進めていく。 地域の方へ事業所のPRを行っていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	感染対策を講じ可能な範囲で地域に出向き、社会とのつながりが持てるよう交流していく。	認知症フェアに作品を展示させていただき、創作活動が意欲的に行えた。感染対策を講じ、市内ドライブなど積極的に出かけ町の様子を散策することができた。利用者のご近所には積極的に挨拶し協力を得ることができた。	コロナ感染が強く外へ出ていくのは心配。事業所内の活動になってしまうのは仕方ないと思う。	利用者のニーズを知り、地域資源を把握し活用できるよう取り組む。また、地域に出向く機会を持社会とのつながりが維持できるよう取り組む。

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>事前にテーマをお知らせして、活発に意見交換を行い。評価・意見をサービス向上に活かしていく。</p>	<p>書面での会議や事業所の報告が中心となってしまった。</p>	<p>事業所の取組みについてはよく説明していただいている。利用者の方の報告が中心となり、地域の方の事例検討には手が回らないと思う。</p>	<p>幅広い職員が会議に出席し、意見をいただいて、サービス向上に活かしていく。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>昼夜を問わず安全に避難できる方法を職員が身につけるとともに、近隣施設との協力体制を強化していく。</p>	<p>特養と共同で毎月避難訓練に参加し、避難方法を職員がイメージできた。近隣施設との協力体についての理解は薄い。</p>	<p>工業団地内にあるため地域の防災にどこまで参加すればよいかわからない。</p>	<p>昼夜を問わず安全に避難できる方法を職員が確実にできるとともに、近隣施設との協力体制や連携方法も身につけていく。</p>